

(その1)

平成 26 年度 中学一般入試① 考查問題 (社会)



問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

「常食の菜はなはだ悪し (おかずがとてもまずい)」

これは、奈良時代の役所で作された食事への不満を、役人が木簡(文字が書かれた木の札)に書きのこした文です。この木簡は、平城京の跡地から見つかりました。奈良文化財研究所が1955年に発掘調査を始めて以来、平城京の跡地では現在まで1000回をこえる発掘が行われ、約17万点もの木簡が見つかりました。木簡は、『日本書紀』などの歴史書には決してあらわれない、古代における社会のようすや人々の気持ちなども教えてくれる貴重な史料なのです。

①奈良盆地の北端につくられた平城京は、710年から784年まで日本の首都でした。②唐の長安城をモデルにした平城京は、『地図』のように、「平城宮」と「平城京」の区域から成り立っていました。「平城宮」には、③天皇の住まいである内裏、さまざまな役所、全国から集めた④租税をたくわえる倉庫が立ち並んでいました。「平城京」は、碁盤の目のように区画された人々の生活空間でした。「平城宮」の正門である朱雀門と「平城京」の正門である羅城門をむすぶ朱雀大路をはさんで、「平城京」の東側の地域は「左京」、西側の地域は「右京」とされました。

「左京」の八条三坊と「右京」の八条二坊の土地には、それぞれ公営の市場として「東市」と「西市」が置かれ、「平城京」での商売はほとんどここで行われました。市の営業時間は正午から日の入りまでで、市で商売する人は市人と呼ばれ、取りあつかう商品を看板にかかげて店を開いていました。市では、米や野菜、魚などの⑤食品のほか、布や糸などのせんい製品、筆や墨などの文具、国内でもめったにとれない瑠璃(自然にできたガラス製品)、唐や⑥新羅から輸入した香木(心地よい香りをもつ木材)や顔料(着色に用いる鉱物の粉末)、仏教の経典まで売買されていました。

左京の三条二坊の土地には長屋王の家があり、この跡地から約3万5千点の木簡が見つかりました。長屋王は天武天皇の孫にあたる皇族で、彼の妻は元正天皇の妹でした。720年に長いあいだ政治権力をにぎっていた藤原不比等が死ぬと、元正天皇は長屋王に政治を任せました。長屋王は、724年に聖武天皇(文武天皇と藤原宮子との間の息子)が位についても政治権力をにぎり続け、経済的にも90町歩(約1053ヘクタール。東京ディズニーリゾートの敷地面積の約10倍)の水田、長屋王家に⑦租・庸・調を納める2200戸(約44000人)の人々など、莫大な財産を持っていたと考えられています。この頃から、長屋王は、聖武天皇に近づこうとする不比等の4人の息子(「藤原四子」と対立するようになりました。727年に聖武天皇と藤原光明子(不比等の娘)の間に生まれた息子が1才で死ぬと、「藤原四子」はそれを長屋王のまじないのせいだと非難しました。聖武天皇と光明子の間には娘しか生まれなかったため、長屋王が天皇の位につく可能性さえ出てきたのです。729年に長屋王が、光明子が皇族以外で初めての皇后になることに強く反対したため、「藤原四子」との対立は頂点に達しました。

さて、長屋王家の跡地から出土した2つの木簡から、どのような歴史が見えてくるのでしょうか。

(1)「長屋親王宮 鮑大贄十編 (長屋親王)の宮へ納める、10個の荷物にまとめられたアワビの「大贄)」

たった10文字が記されたこの木簡は、荷物につけられた木の荷札なのですが、おどろくべき内容がふくまれています。まず、「親王」とは天皇の子どもか兄弟姉妹を示す言葉なので、天武天皇の孫である長屋王が「長屋親王」と呼ばれることはありえないことでした。つぎに、「贄」とは天皇に納める⑧魚貝や海藻、鳥などの貢ぎ物を示す言葉なので、天皇ではない長屋王への貢ぎ物を「大贄」と呼ぶこともありえないことだったのです。

(2)「十一月四日店物 飯九十九箇 直九十九文 (11月4日に店で売った商品の売り上げ 弁当99個 その値段99文)」

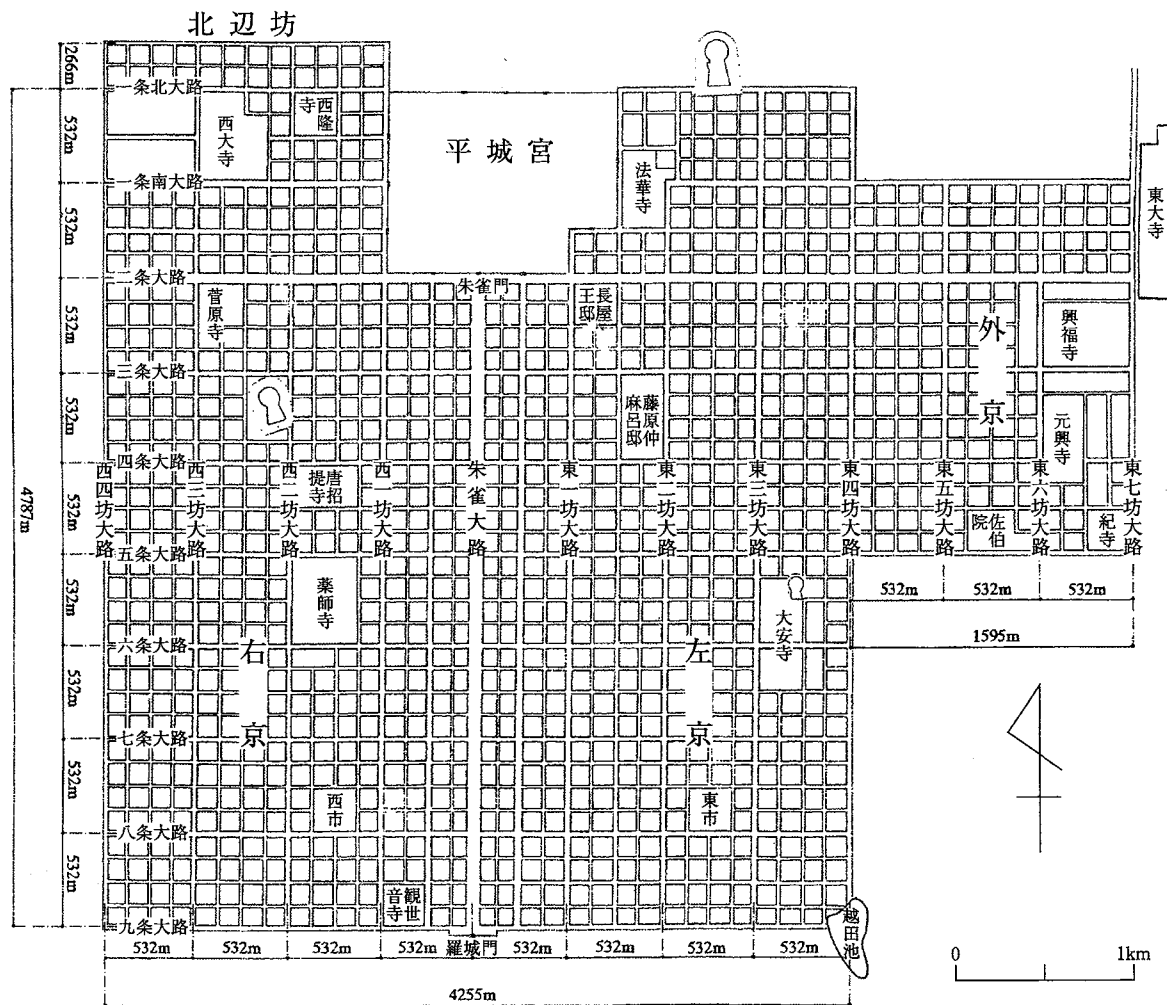
表面にこう記されたこの木簡は、長屋王家が経営している店の売り上げ記録と考えられているものです。⑨この商店では、器に盛りつけられた飯、つまり弁当を販売していました。また、この木簡の裏面には、同じ日に自家製の酒5斗(約90リットル)を50文の値段で売り上げていたことも記されています。

729年に長屋王は、「天皇の地位を奪おうとしている」と謀反(天皇を殺傷したり、天皇の地位を奪おうと計画すること)を密告され、対立する「藤原四子」が兵をひきいて彼の家を取りかこんだため、妃や子どもとともに自害しました。これを「長屋王の変」といいます。⑩(1)の木簡が示す事実が、「長屋王の変」に関係したのではないかとされています。

現代の私たちの身の回りにも、こうした木簡のように、小さな事実であるけれども意外な事実を示してくれる資料があるのではないのでしょうか。私たちもそれを見つけて、うまく活用することで、現代の社会をより豊かに理解したいものですね。

(その2)

《地図》平城京の町なみ



(奈良文化財研究所『日中古代都城図録』クバプロより)

問1. 下線部①に関連して、奈良県は、地形的に北部の奈良盆地と南部の吉野山地よしのに分類することができます。吉野山地では、江戸時代から人工的に杉や檜を生産する吉野林業がさかんで、ふなの天然林が多く残されている白神山地しろかみとは異なる景観が見られます。吉野山地の景観の特徴として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 木を伐採した後の植林では、木の苗と苗がととも短い間隔になるように植えつけられている。
- イ. 木の成長を妨げる「枝打ち」はしないので、木の枝と葉は人間の背たけの高さまで生い茂っている。
- ウ. 木の成長に合わせて「間伐」を定期的にくり返すことで、細くて高さのある木がまっすぐ育っている。
- エ. 植林や伐採の作業を効率よくするため、斜面ごとと同じような成長状態の木が並んでいる。

問2. 下線部②に関連して、唐の歴史を引きついでいる国として中華人民共和国があります。中華人民共和国は、増え続ける人口が食糧やエネルギーの不足をひき起こすことを心配して、1979年からある政策を実施しています。その政策は何といわれていますか、答えなさい。

問3. 下線部③について、天皇に関する文として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 大日本帝国憲法では、天皇は神のように尊い者であると定められた。
- イ. 大日本帝国憲法では、天皇が陸海軍を統率すると定められた。
- ウ. 日本国憲法では、内閣総理大臣は国会で選ばれ、天皇が任命すると定められている。
- エ. 日本国憲法では、天皇の国事行為には国会の助言と承認がなくてはならないと定められている。

(その3)

問4. 下線部④に関連して、現代の日本の税金に関する文として正しいものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 税金は、税を負担する個人や企業が自ら納めなければならない。
- イ. 個人や企業に所得があると所得税がかかる。
- ウ. 個人や企業が土地や建物を所有すると固定資産税がかかる。
- エ. 税金は国や都道府県に納められるが、市区町村には納められない。

問5. 下線部⑤に関連して、最近では、特定の食物が原因でアレルギー^{しやうじやう}症状をおこす人のために、食品工業の企業ではさまざまな取り組みをしています。食物アレルギーの原因物質（食物アレルゲン）を取り除いた製品づくりに取り組むことだけでなく、どんな消費者でも安心して商品を買えるようにする対策として、どのような取り組みがありますか。具体的に答えなさい。

問6. 下線部⑥に関連して、新羅の歴史を引きついでいる国の1つに大韓民国^{だいかんみんこく}があります。大韓民国の人々に定着している食文化に関する文として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 大韓民国では、ご飯やスープはスプーンで食べ、おかずははして食べるものとされている。
- イ. 大韓民国では、冬の寒さが厳しいので、キムチなど辛い^{から}ものを食べて体を温めるようにしている。
- ウ. 大韓民国では、食事の時に、子どもが年上の人より先に料理に手を出してはいけないこととされている。
- エ. 大韓民国では、食器^{しよくたく}を食卓^{じやうたく}に置いたまま料理をはしでとることは行儀が悪いこととされている。

問7. 下線部⑦について、租とはどのような租税なのか、説明しなさい。

問8. 下線部⑧について、魚貝の資源を守るために、現代の漁業協同組合の中には海岸近くの「魚つき保安林^{うお}」という森林を守る活動をしているところがあります。「魚つき保安林」を守ることが、どのようにして魚や貝などの資源を守ることにつながるのでしょうか。「魚つき保安林」の役割にふれて、80字以内で具体的に説明しなさい。

問9. 下線部⑨について、長屋王家が「弁当屋」を経営していたとすると、それは古代の「外食産業」だったという説もあります。この「弁当屋」の客の中には、遠くの土地に暮らす家族と離れて平城京^{はな}にやってきた人も多かったのではないのでしょうか。長屋王が生きていた時代に、どのような人々が地方から平城京にやってきていたのでしょうか。2つの例をあげて、60字以内で説明しなさい。

(その4)

問10. 下線部⑩について、(1)の木簡は「藤原四子」によって利用されて、「長屋王の変」に結びついたのではないかと
 説があります。その説に従うとすれば、「藤原四子」は(1)の木簡をどのように利用して長屋王を追いつめたと考えられ
 ますか。本文と《系図》を参考にして、これまで藤原氏がどのようにして政治権力を手に入れてきたのか、「藤原四子」
 がどのようなことをおそれて長屋王の政治権力を奪おうとしたのかにもふれて、210字以内で説明しなさい。

《系図》

